

花のお江戸を歩く会

今！静かなフームに！

「裏渋谷・奥渋谷を歩く」

緊急連絡090-5019-4033

＜散歩道のご案内＞

渋谷＝若者の街というイメージが強いですが、実は大人も楽しめるエリアがあることをご存知ですか？センター街の喧騒を離れた通称"裏渋谷"が、お洒落・グルメエリアとして注目され始めています。渋谷区宇田川町の井之頭公園通り周辺です。

今回は、江戸の歴史が集中する渋谷道玄坂をスタートして、昔の裏渋谷「旧円山町」～管理人が「奥渋谷」と命名した松濤の超々高級住宅街、大使館街。現職の総理大臣・財務大臣らが暮らす神山・富ヶ谷の裕福タウンを訪ねます。そして旧神山商店街である「裏渋谷商店街」を散策したいと思います。きっとお好みのファッションやグルメが発見できるはず。最後は、かつては豊かな自然環境を求めて多くの文士達が居住した渋谷センター街からNHK放送センターまで歩きます。東京の時代の変化が読める散歩道です。

＜散歩道の順路＞（最終下見で変更の可能性あり）

渋谷ハチ公前→恋文横丁→東京新詩社跡→道玄坂→道玄坂の碑→千代田稲荷→百軒店→道玄坂地藏→神泉駅→松濤公園（休憩）→神山・富ヶ谷→井之頭通り（奥渋谷）→宇田川地藏→竹久夢二旧居跡→山路愛山終焉の地→渋谷パルコ→スペイン坂→二二六事件慰霊碑→国木田独歩旧居跡→NHK放送センター→解散（JR渋谷駅、JR原宿駅）

*時間があれば「裏原宿」にも立ち寄ります。

＜個別ガイド＞

☆裏渋谷とは＝そもそも『裏渋谷』とは？ 渋谷区宇田川町。井の頭通り「東急ハンズ」「オルガン坂」付近。90年代には「シスコ坂」を中心に100店舗以上のレコ屋があり、世界一レコードショップ密集率を誇り、音楽・ファッション・バー・クラブなどがひしめき合い、ストリートカルチャーをはじめ、あらゆるカルチャーの発信源でした。

しかし、レコード不況・ファストファッション定着の煽りを受け、ビルテナントの空きが目立つようになって来たのですが、近年ではレコードショップ・アパレルショップ跡地に、個性的なカフェや、音楽とともに人々とコミュニケーションを楽しめるバー、“表渋谷”センター街あたりでは味わえない知られざるグルメスポットが立ち並び、DIY精神溢れる地域＝「裏渋谷」としてにわかに注目が集まっています。

① 恋文横丁

「恋文横丁」という呼び名は、丹羽又雄の「恋文」という小説に由来する。映画化され

てから渋谷で最も有名になった横丁である。朝鮮戦争当時、英語のできない女性のために、アメリカ兵相手のラブライターを書く代書屋があった。主人公はここで代筆を商売にしていた。横丁は、昭和40年に焼け、今は渋谷109が建っている。その所には碑が立っている。『これより入った奥に小さな36の店があった。戦後の混乱、物資の不足、それに係事という重荷まで背負い、彼等の足どりは重く乱れがちであった。しかし、彼等は希望と繁栄とロマンを求め、その小路を”恋文横丁”と名づけました』

② 東京新詩社跡

「与謝野鉄幹は明治34年(1901年)麴町から渋谷に移り住み、晶子と結婚しました。東京新詩社の機関誌『明星』を12号から発行し、晶子も歌集『みだれ髪』を刊行しました。詩歌革新を目指して盛んに文学活動を行いました。明治37年に千駄ヶ谷に移るまでに、この近くに2度住まいを変えています。千駄ヶ谷に移り住んでから、東京新詩社は最盛期を迎え、晶子も歌集『恋衣』や『夢の華』などを刊行しましたが、新詩社の機関誌『明星』が100号で廃刊される事態となり、明治42年に神田駿河台に移りました。」→

道玄坂

③ 道玄坂の碑

渋谷の開祖、渋谷氏が北条氏綱に亡ぼされたとき(1525年)その一族の大和田太郎道玄がこの坂の傍に道玄庵を造って住んだ。それでこの坂を道玄坂というといわれている。江戸時代ここを通る青山街道は神奈川県の人と物を江戸に運ぶ大切な道だった。やがて明治になり品川鉄道(山手線)ができると渋谷附近はひらけだした。近くに住んだ芥川龍之介・柳田國男がここを通って通学した。坂下に新詩社ができたり、林芙美子が夜店を出したこともあるようだ。

④ 百軒店

「百軒店」は、大正12(1923)年の関東大震災直後、復興にともなう渋谷開発計画によって作られた街でした。箱根土地株式会社(西武グループの中心であったコクドの前身)が中川伯爵(旧・豊前岡藩主家)邸の土地を購入し、そこに百貨店のような空間を出現させるというコンセプトのもと、有名店・老舗を被災した下町から誘致したのです。当時としては非常に画期的な手法でした。

その賑わいは浅草の仲見世に比べられたほどであり、当時宇田川町に住んでいた竹久夢二をして「百軒店で軒別に見歩くのはおっくうになった」と言わしめました。

下町の復興とともに当初の有名店は去っていきましたが、その跡地には飲食店や映画館、カフェなどが次々と入り、「百軒店」は渋谷における娯楽の中心として、新たな賑わいを見せます。ジャズ喫茶やロック喫茶によっても有名で、文化の街・音楽の街として栄え、それはランプリング=ストリートの単館系映画館やライブハウスとともにある、現在の「百軒店」の姿へとつながっています。

⑤ 千代田稲荷

長禄元年(1457)太田道灌江戸城築城の時守護神として伏見稲荷を勧請、徳川家康入城

後に城内紅葉山に遷座、慶長 7 年渋谷宮益坂に遷座、江戸城より遷座したことから千代田稲荷と称したといひます。関東大震災により渋谷百軒店へ移し再建、戦後中川稲荷神社を末社としたといひます

⑥ 道玄坂地藏

渋谷・道玄坂を上った、円山町の真ん中、料亭が残る一角にひっそりと佇む地藏。1626 年からずっと渋谷の街を見守り続けている。背が高く、口に紅をさしているのが特徴的。1997 年に起こった『東電 OL 殺人事件』でも有名

⑦ 旧渋谷村円山町とは（裏渋谷の先祖）

円山は江戸時代から大山街道の宿場町として栄えていた。円山町が花街となったのは、1887 年（明治 20 年）頃、義太夫流しをなりわいにしていた人が、弘法湯の前で宝屋という芸者屋を開業したのが始まり。その後、年とともに芸者屋、料理屋が増していき、それに伴い代々木練兵場の将校達が円山町に遊びに来るようになった。この界隈が円山と呼ばれるようになったのは昭和に入ってからで、以前は鍋島藩の荒木氏の所有だったため、「荒木山」と呼ばれていた。円山町は 1913 年（大正 2 年）に、芸妓置屋 24 戸、芸妓 60 名、待合茶屋 13 戸をもった 1 万 5 千坪が三業地として指定された。1919 年（大正 8 年）2 月には、渋谷三業株式会社を創立して隆盛期に入る。1921 年（大正 10 年）には、さらに芸妓置屋 137 戸、芸妓 402 人、待合 96 軒、関東大震災直前には芸妓 420 名を数えた。1980 年ごろまで三業界のにぎわいは続いたが、時代の変遷とともに料亭の数も減っていった。

→神泉駅→【奥渋谷へ】→松濤美術館

⑧ 松濤公園（休憩）

当地一帯は江戸時代には紀州徳川家の下屋敷があったところで、1876 年（明治 9 年）に佐賀の鍋島家に払い下げられた。鍋島家は当地に茶園を開いて「松濤園」と名付け、「松濤」という名で茶の販売も行ってた。1932 年（昭和 7 年）になると茶園は廃止され、湧水池のある一角が児童遊園として整備され、1932 年（昭和 7 年）に東京市に寄贈された後、1950 年（昭和 25 年）からは渋谷区に管轄が移されて現在に至っている。→山田五十鈴宅（？）

→神山（財務大臣の家）→富ヶ谷（総理大臣のマンション）→井之頭通り（奥渋谷散策）

→渋谷センター街

⑨ 竹久夢二旧居跡

詩人でもある竹久夢二は、独特の作風による美人画家としても有名です。明治 17 年に岡山県に生まれ、大正 10 年 8 月から大正 14 年 1 月までここに住み、「どんたく図案社」「一草居」の表札を出して画業にはげみました。

⑩ 山路愛山終焉の地

山路愛山は明治の歴史評論家で、明治 29 年 6 月から大正 6 年 3 月 15 日に 54 歳で亡くなるまでこの地に住み、独特の歴史評論活動を展開しました。代表作には「豊大閣」「西郷隆盛」「足利尊氏」などがあります。

⑪ スペイン坂

この坂の近くにあった喫茶店「阿羅比花（あらびか）」の店主は、写真で見たスペインの風景に心を惹かれ、店の内装もスペイン風で統一していた。1975年（昭和50年）、その2年前に渋谷に店舗を開業していた商業ビル・パルコから通りの命名を依頼された店主は、迷わず「スペイン坂」の名前を付けたという。→時間が許せばコーヒータイム

⑫ 二二六事件慰霊碑

ここはかつて、東京陸軍刑務所の敷地だった土地であり、青年将校たちが処刑された場所だ。1965年、死者の御霊を弔うため、遺族などによって観音像が建てられた。

そんな二・二六事件慰霊像が、若者たちの間で恋愛にご利益のある「パワースポット」になっているという。2010年に刊行された『島田秀平と行く！全国パワースポットガイド 決定版！！』（講談社）には、「渋谷の有名告白スポット」として、写真付きでこの慰霊像が取り上げられている。「.....この慰霊碑の前で告白やプロポーズをすとうまくいくと女子高生の間で人気なんです。当時、若くして処刑されてしまった青年将校の霊が今の若者を応援してくれているという説と、2.26＝（夫婦ロック）という語呂合わせからきているという説があります」

⑬ 国木田独歩旧居跡

国木田独歩は、明治29年9月から、山路愛山の紹介でこの地に住みました。当時このあたりは、小川や林などの自然が豊かでした。ここでの生活や風光をもとに、有名な「武蔵野」などの名作を書きました。→NHK放送センター→解散（JR渋谷駅、JR原宿駅）

*時間があれば、裏原宿を少しだけ歩きます、

【管理人が定義する裏街とは】

今街歩きで「裏街散歩」がブームです。裏渋谷、裏原、裏横、裏銀、裏新、裏池、裏朝、裏上などです。ビッグで現代的な著名な街・都市の裏側を歩くということです。町の裏側には「深い歴史の皺」「裏ゆえのダティなイメージ」「裏を打ち破ろうとする新しいウエーブの誕生」など新旧の面白い地域が点在しています。また、見落としがちですが町の奥にも意外な展開が見られ面白いです。「表街+裏街～奥街」散歩がキーワードです。

★裏渋谷A＝旧円山町

大山街道沿いの花街として古い歴史を誇ってきたが衰退し、戦後はラブホテル街に変貌し、渋谷の裏町としてダティなイメージ演出に一役買っている地域。

★裏渋谷B＝神山商店街（現：裏渋谷商店街）・・・ここが今噂の「裏渋谷」です・

高級住宅地に寄り添う形で成立してきた地味な商店街であったが、近年はグルメやファッション系のショップが立ち並び、いい意味の裏渋谷として注目を集める。

★奥渋谷

松濤・神山地域は江戸時代は大名屋敷、明治時代以降は茶の栽培地として、自然環境豊かな台地であったが、東急線渋谷駅の開設により都心への利便性も高まり、高級住宅街へと変貌。渋谷の高級イメージに貢献している地域。